

学科名	生物環境化学科、電気通信・電気電子工学科、建築・デザイン学科、情報学科、経営ビジネス学科						
科目名	日本近現代史						
科目区分	教養教育科目	単位数	2	開講時期	前期		
必修・選択の別	選択						
担当者	井手麻衣子						
授業の到達目標 (シラバスから)	<p>目標1 日本の幕末・維新期の社会の変遷について概説できるようになります。</p> <p>目標2 現代社会の様々な事象・価値観について、歴史的形成過程や背景を分析する力を身に付けることによって、物事を客観的に捉えることが可能になります。</p> <p>目標3 理系の学問的手法とは全く異なる思考法を学ぶことで、より柔軟な発想力を養うことができます。この科目の修得は、本学部の定めるディプロマポリシー2、3の達成に關与しています。</p>						
日程と内容	<p>①4/10 ガイダンス／19世紀の意味</p> <p>②4/17 近世後期の構造(1) 国際環境</p> <p>③4/24 近世後期の構造(2) 複合国家</p> <p>④5/8 近世後期の構造(3) 社会結合</p> <p>⑤5/15 19世紀前半の変化 国際環境と知識人</p> <p>⑥5/22 (第5回の続き)</p> <p>⑦5/29 幕末の変革 対外関係・政治体制</p> <p>⑧6/5 明治前期の変革(1) 武士の解体</p> <p>⑨6/12 明治前期の変革(2) 近隣関係の再組織</p> <p>⑩6/19 (第9回の続き)</p> <p>⑪6/26 明治前期の変革(3) 政治体制</p> <p>⑫7/10 近代前期の構造(1) 「中央」と「地方」</p> <p>⑬7/14 近代前期の構造(2) 国民形成</p> <p>⑭7/17 東アジアの国際秩序の変化</p> <p>⑮7/24 (第14回の続き)</p> <p>⑯7/31 期末試験</p>						
成績評価基準	定期試験	70%	実技				0%
	臨時試験	0%	部外評価				0%
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション				0%
	課題	30%					
	演習	0%	計				100%
授業到達目標の達成度	<p>学生の習熟度を勘案し当初の予定よりも授業内容を縮小したが、概ね幕末維新期の社会変動について学び、現代につながる社会のしくみの成立について概観したので、目標1・2は達成できた。しかし、歴史学の学問的手法について言及(強調)できた箇所が少なく、理系の学問との違いを認識できたかは不明なため、目標3は達成できなかったと考える。</p>						
反省点	<p>授業計画の見通しが甘く、テキストの全内容を扱うことができなかった。また、教室の雰囲気の良い状態で保つことができず、その結果前年度より不合格者を増加させてしまった。</p>						
来年度の計画	—						
授業評価アンケートに対するコメント	授業評価が全体的に平均より低かったため、反省点を改善し次回の授業に臨みたい。						
履修登録者数	133名	定期試験 受験者数	126名	合格者数	99名	合格率	79%